

Fate 4 EXTRA

Kadokawa
Comics
A

フェイト/エクストラ

4

ろび～な
TYPE-MOON / マーベラスAQL

漫画 ろび～な

原作 TYPE-MOON / マーベラスAQL

Kadokawa Comics A

KCA346-4
角川書店



9784041208281



1920979005808

ISBN978-4-04-120828-1

C0979 ¥580E

定価:本体580円(税別) 発行:角川書店

セイバーは生乳の愛蔵で、
彼の愛蔵サーヴァント・アサリンの愛蔵コップ
海濱白野の愛蔵愛蔵の愛蔵の愛蔵
西武百貨店の愛蔵コップ・アサリンの愛蔵コップ
彼の愛蔵サーヴァント・アサリンの愛蔵コップ
セイバーは生乳の愛蔵で、
彼の愛蔵サーヴァント・アサリンの愛蔵コップ





Kadokawa Comics A

フェイト/エクストラ 4

さらびな 著 TYPE-MOON/マーベラスAQL

コンパティク
毎月10日発売
「フェイト/エクストラ」好評連載中!
コンパティク最新情報
<http://www.kadokawa.co.jp/cv/>
角川書店最新情報
<http://www.kadokawa.co.jp/>
フェイト/エクストラ ISBN978-4-04-120828-1

出でよ!!
招蕩黄並劇場
アエストゥス ドムス・アウレア
原案 ろび~な 原作 TYPE-MOON/マーベラスAQL
Kadokawa Comics A

ISBN978-4-04-120828-1
C0979 ¥580E
9784041208281

1920979005808

ISBN978-4-04-120828-1
C0979 ¥580E
定価:本体580円(税別) 発行:角川書店

「もうひとつの聖杯戦争から始まる物語の始まり」
「セイバーの少女時代」
「セイバーは生れた瞬間で、
己の運命を掴み取る」……



もうひとつの聖杯戦争を描く①～④巻好評発売中!!
Fate 1 Fate 2 Fate 3
そして
本巻で……
セイバーの少女時代
解禁!!

第一章 月の聖杯戦争
第二章 強きもの弱きもの
Sound Drama Fate/EXTRA
ドラマCDシリーズ発売中!!

Fate/EXTRA



WHITE/EXTRA

4

著者・ろび〜な
監修・TYPE-MOON、レーベルK&G J

KCA346/4
角川書店

Kadokawa Comics A

Fate 4 EXTRA



漫画

ろび〜な

原案

TYPE-MOON /
マーベラスAQL

Fate/EXTRA





原案 るび～な
TYPE-MOON/
マーベラスAQL

Fate 4
EXTRA

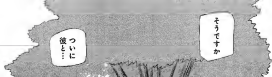


Fate 4

EXTRA

C O N T E N T S

phantasm18 最凶の刺客	005
phantasm19 魔人季型	020
phantasm20 追憶の風景	037
phantasm21 Return to Forever	053
phantasm22 殺シノ調べ	077
phantasm23 僕に告げる君の名は	102
phantasm24 遙かなる帝政	120
phantasm25 番組と我と永遠	145
extra episode 本着回だよ EXTRA	171
キャラクター設定資料	175
あとがき	179



そうですか

ついに
彼と……



まったく
魔術師というものは

肉弾での戦いと違って
わずかな瞬間で
急激に伸びることがある



……の瞬間を



だが
それもここで終わる

世界は――
最終はあなたが
手にするはずなのだ
レナ

俺は
そのために
ここに
在る

兄さん

phantasm18

最凶の刺客





冒険から送られてきた
ハンティングゲームの
報酬

次の対戦相手の
戦闘データ

モニターに
映っていたのは！

ユリウス・
ベルキスク・
ハーウェイ



冒険から
メールが届いた



どうした
奏者？





私を雇った組織にとっちゃ
レオ以上に惜しい天敵でしょうね

幹部も何人か
殺されたっていうし



あいつはハーウェイ家の
毒虫駆除班幹部

表に出ることのない
闇討部隊の総括にして
プロの殺し屋よ



ああ そっちも
気を付けて
遠坂

ええ
通信切るわよ



アレはあなたとは
真逆のマスターよ

戦いに勝機を
持ち込むようじゃ
確実に殺されるでしょうね

正直 私と比べても
踏んだ地雷が險険い

殺し合い
暗殺の化身よ あの男



ユリウス
の
機動データ……



決戦が決まった
次の瞬間、対戦相手が
倒れ落ちている



勝負を
決めているのは
すべて



いつたい
何が起きているんだ？

なに何か
見えない
一手がある

サーヴァントが
実体化せずに
攻撃することは
可能なのか？



しかも
ユリウスは
機動だにせず……



余の語っている
かぎりでは
不可能な筈だ

何かしら
からくりは
あるはず



この男の性格だ
討賊日までに
必ず奇謀を
かけてくるだろう

その時
何か獲めるやも
しれぬ……

……いや
掘んでみせよう！

そなたは
アリーナで
魔術師の腕を
磨くがよい

それに



余はもつと
ここを
愉しみたい

せつかくの
絶景なのだから

ああ



妻
話がある



あの
ユリウスが
相手だ

宝具を使わねば
勝利もできぬ
場面もあろう

宝具を開放する
ということとは
余の真名を
知ること

余の真名を
知りたいか……

……



本当は
昨晚夢みて
余は腹をへんて
いたのだ

その……
まあ！
いろいろあって
流れたわけだか

……



あの偉大で
わがままなセイバーが
小さくなったる

真名を明かすのは
そんなに勇気が
いることなのか

……
かわいい

……そうか
セイバーは

抱い込んだ

俺に
拒絶されるのが

距離を
作られるのが

そんなセイバーを
見ているだけで
胸が苦しい

セイバー……
俺は

ふん

……意外だな

……えっ



貴様のことだ
てつきり奇襲を
かけてくるものだ
思っていたが

まさか
堂々と目の前に
現れるとは

ユリウス！



やり残した仕事を
片づけに来た

決戦日まで
待つことはない

お前は
ここで
測えろ



無い

感じるのは
奴の機軸だけ

気をつけろ
セイバー
見えない一手がある

セイバー——
サーヴァントの気配は？

……で
やる気か



来い！

切り捨てる!!

サーヴァントも
連れずに
姿を現すとは

さあ
来い

その一手
見極めてやる

その慢心
気に食わぬ



いやいや
それはこちらの
台詞よ



な...っ



ほかな……

今の声……
奴のサーヴァントかな？

悪魔の力
で動かないでくれ

勇者……



すまめ
失敗だ

あああ

逃げろ……

セイバー——！！





phantasm19

魔人拳聖



セイバー！



終わったな
行くぞ



.....ふん？

どうした

やはり首でも
削ぎとっておくか？

いやそれには及ばん
確かに心穴を衝いた
衝いたのだが――

まあ 良しとするか

抜かりはない
いずれ死に至ろう

……すまぬ 奥様よ

そなたの剣であると
宣誓しておきながら
このような
失態をさらすとは……

傷の痛みも
耐え切れぬが
余は奮戦だけで
消えてしまいたいようだ



いつか俺の
体が戻ったら



俺の記憶を
取り戻して



待て
ユリウス…

君に伝えたいことが
たくさんあるはず
なんだ…

倒さなきゃ

敵を
倒さなきゃ

ああああ
アアアア

セイバーを
救う方法を
聞き出さなきゃ

いくら
魔術の腕が立つ
マスターといえど

サーヴァントの
庇護なしで
勝てるはずがない



離れから
不正介入を行います
どうぞ そのままで

白野さん
強制転送します



白野さんの傷から
何かが流れ込んで来る

これは
あの人の
記憶



これは
30年前の
戦場

記録でしか
残ってない風景を
なぜあなたは
体験している？



そんな
白野さん

あなたの…
あなたの体は……



白野君
ラニ
大丈夫？

間に合ったわね…



凜：ラニ……

襲われたのが
あそこでよかった

ラニと2人がかりで
防壁をすり抜けて
あなたたちを拾ったの

決闘場なら
手出しが
できなかったわ

セイバーの体……
深刻な状況ね

わたしたちに
診せて

優先すべきこと

それは白野さんの
戦力を
回復させること

今……

このことを
話すべきでは
ありません

白野さん

いえ何でも
ありません

すみません

ラニ？





あなたからサーヴァントへ
送られるハズの魔力が
まったく届いていないのよ

サーヴァントの体を形成するには
マスタからの魔力供給が必要
それが止まった場合
体を維持できない

あなたのサーヴァントは
今サーヴァント自身の魔力で
体を維持してるわ

セイバーの残魔力は
もう一割以下……

このまま魔力を供給しなければ
早くて明日には
体を維持できなくなるわ

明日までの命……

そんな……

白野君
少し時間をちょうだい
対策を考えるから……



俺は……
無力だ……

セイバーのために
何もできない
なんて

どうすれば
セイバーを
救える？

あのサーヴァントを
倒す方法を
探れる？

考えろ
考えろ

おう ここにいたか
社健で何より

昼間も
会ったのう

なっ

おぬしひとりか？
サーヴァントは
どうした？



僕も確かに
ユリウスのような
殺し屋と
同類だがなあ

いや 出金った人間
すべてを殺しては
メシを食うにも困らうさ！

問答無用で
邪魔者を
消すわけでは
ないんだな

おうよ
僕は「一戦一殺」を
心がけておる

一度の戦いでは
ひとりしか殺さぬし
ひとりには必ず
死んでもらう

しかし……
おぬしの
マーズアントも
なかなかやりおるわい

「一戦一殺」の原則を
おとしおるマーズアントは
なかなかお前だ

「一戦一殺」の原則を
おとしおるマーズアントは
なかなかお前だ

今までの相手よりも
何倍も情しいぞ

ふむ あれだな
殺すには情しい相手
というヤツか

殺すには
惜しい……

なら……
ならセイバーを
救えないのか？



それは聞けぬ
相談だ

僕として助けて
やりたいのは山々だが
この拳は倒すことしか
できないのだ



僕の拳に宿るのは「殺」のみでな
人体を効率よく壊す術理はあれ
たいそんな思想も理念もない

いや
命を生かしたことなく
致えるほどもなし
武人を謳うには
ほど遠い殺人鬼よ……



ゆえに
我がサーヴァントは
おぬしの手で治せ

僕として
敵は万全でなければ
愉しくない

おぬしのサーヴァントが
もう一度立ち上がる時を
待っておるぞ



カカッ



セイバー……



むう……
頭が痛いな

また頭痛だ

毒の吟味は
飽いたというのに

また杯を
飲み干せというのか

ああ
この感覚
嫌だ

余は沢山の愛を
注いだのに
それが花咲く
ことは
なかった

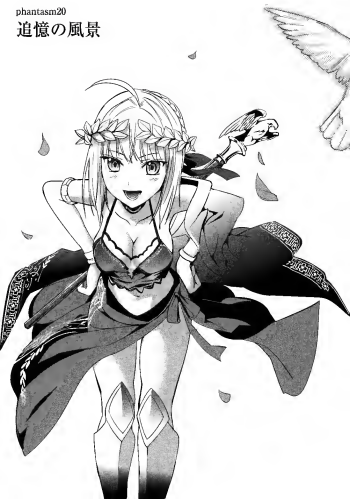
誰ぞ
余の手を
取ってくれ

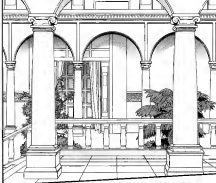
誰か余のそばに
いてくれ

誰か.....

phantasm20

追憶の風景







たあ...



せつなく
良い詩が
浮かびそう
だったのに



大人たちが
騒がしい



無粋な音で
かき消された
ではないか



ふん

ついにこの時が
来てしまったのだな

ここに
居たのですか
探しましたよ



数刻前！
お歸れに
なりました

母の願いは
叶いました

あなたは

皇帝になるのです

皇帝…私が…
そのような大事
果たして私に
務まるのでしょうか

もちろんです

母の連れ子といえど
今のあなたは
正當なカエサル
の継嗣者なのですから

我がモリトリウムも
ここでお終わりか

私はただ

ここで
歌を降じて
いたかった
だけなのに

うう

また
頭痛ですか



またあの薬を
あげましょう

全部
飲み干すの
ですよ



これは好きませぬ
固いのです

母の言うことに
従うのです
すべて上手く
いくのですから

んく……



平君には
毒らえぬ……

言ひなを
聞かなければ
実の子といえ
殺されよう

あの
養父のようじ

あなたに
家庭教師を
つけましょう

皇帝に
相応しい教養を

母の旧知に
良き人物がいます

元・元老院の
哲学者

元老院を
味方につけ
私たちの地位を
揺るぎ無いものに

16





久しぶりにこの地に
戻ってきたので
感傷に浸って
いたのです

哲学者の
セネカと申します

皇帝陛下

でかい……



そなたも
とんだ
貧乏くじを
引いたよな

余は哲学
ましてや帝王学など
興味は無い

任について
早々に荷物を
まとめる事にな
るだろうな



ほう
そなたが
余の家庭教師か

てっきり
鷹の曲がった老人だと
思っていたが
意外だったぞ



そうはいきません
陛下

あなたの母君には
追放の身になった私を
救ってもらった
恩がありますゆえ

あなたには
立派な
指導者になって
いただきます



皇帝陛下は
まだお若い

自身の身長のことでお悩みなら
まだ成長の可能性は
ありますよ

よっ！
余の前で
身長の話
するとは

ことごとく
地雷を踏むな
そなた

そんなことだから
演技の要き目
見るのだぞ

うむ……
腹は立つが
なにやら
おもしろい奴

しばらく
遠征の先に
なろうとだ

その日から
セネカの授業は
始まった

主君たる皇帝を
導くべき者も
少なくはなかったが

この男だけは
違った

余の手を伸ばし
異國を広めるのに
死力を尽くしてくれた





み...
思...
降...
...



唯一つ
不幸なのは



素晴らしい

この方の才は
神に愛されている



皇帝の座に
就こうというのに
未だあの母親の
支配下に
置かれていよう
がない

私の草履は
以上です

うむ！

深き寛容と
市民の心を
獲む言葉の数々

明日の
就任式が楽しみだ

なかなか
おもしろく
なってきた

慢心は
危険ですよ

元老院を
懐柔するのは
一筋縄では
行きません

政治の
ほとんどの実権を
あの機関が
握っているのですから

手厳しいな
たしかに余は
まだ若輩者だが

自分が何を
するべきかは
もう決めている…

そなたが
余の世界を
広くした
おかげでな

余は
改革を行うぞ！

元老院の奴らの
権力が横行しているのは
そなたも
よく知っておろう

腐敗しきった国政を
すべて余が正す

余はこの目で見てきた
権力争いと
野合に満ちた世界をな

いずれ
権力に取り憑かれた
母君とも
対立することにも
なるだろう

だが
余が真に
愛すべきものは

この国の
市民だ

我が才のすべてを
民と藝術品のために
捧げよう

セネカ
そなたの力
もうしばらく
借りるぞ



もちろんです
皇帝陛下



phantasm21

Return to Forever





準備は
出来ましたか

アタリッピン様



ああ……
なんて凄々しい姿
なのでしょう



私の若い頃に
そっくり……



もう行かないと
母君

皆が
待っておりますので



眼差した
力が……

この世に反抗する
つもりですか



少し
自問を
し直すだ
ろうですね

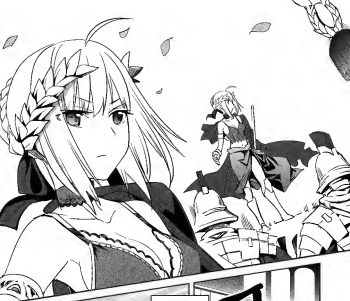
X W

余計な真似を
せネカ



余が皇帝に
即位してからの
日々





セネ力をはじめ
賛同した家臣も
大勢いた

余の示す改革は
茨の道となったが





余の改革は
続いた

改革を進めながら
余は余として
振る舞った



芸術を説き
人の手には
有り余るほどの
情を注ぐ代わり

腕の困難には
惜しみなく
手を差し伸べた

余は民に
愛されてると
信じて



今
思い返せば

それは

セネカ

これを
見てください！



見よ
この舞踏着を！

見事な
男装であろう

男の装い？

攻めも守りも
完璧だ……
余がデザインしたのだぞ



この舞踏着に合わせ
赤い大剣も欲しいぞ

ああ
どんどん
イメージが
湧いてくる

舞踏……
また劇を
やるのですか

うむ
余のための劇場を
造ろうと
計画中だな

余が長年
構想していた
創作劇だ

余は至高の財宝を求めて
ひとりの若者を導き

7つの強敵を討つため
共に戦う剣士の役だ

歌もうたうぞ!

歌は
やがて

追憶の中の
その日々は

デウス・エクス・
マキナより
大層な結末に
なるつもりだ

万雷の喝采で
劇場が満たされるのが
楽しみだ……

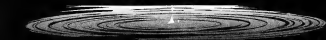
真にもって
煌びやかな
日々だった



思いも
よらなかった
余の終焉ですら

駭く

鮮烈な……



目が醒めたのか
セイバ―





奏者……

そろそろ余は
5回戦の半ばで――

そなたが
無事で
よかった！

余は
どれくらい
気を失って
いたのだ？

半日！
もうすぐ
夜明けだよ



夜明けか……

昔、飼っていた犬が
夢に出てきたのだ

それは
優しく賢い奴でな

確かな親がいなかった
余にとって
肉親のような奴だった

余は
懐かしい夢を
見ていた

そなたに
少し似ていたところも
あったかもしれない

大かあ…
なんだよ
それ
このまま
話を
続けてくれ

セイバーの話を
もっと聞いていたい

勇者から
魔力が
届いていない

戦況は…

あまり
芳しく
ないようだな

あの男に
勇者との繋がりをも
断ち切られたか

夜明けまで
余の命を保てるか
わからぬ

そなた

ずっと手を
握っていたのか？



掌から
セイバーの
気を感じない



こんなに近い
距離なのに
セイバーが
全く感じるなんて



すまない

俺には
こんなことしか
出来ない

すまない



セイバーを救う方法が
まだ見つからないんだ



これは
良いものだ…

許すぞ



ハクノさんと
連絡は
取れましたか？



さっきから
連絡してるのに
返信がないわ



間に合わなかった

まさか
セイバーが…？



もうすぐ
夜明けね

時間がない

ア
ア
ア



星脈みの波長にあわせて
潮が乱された回線を見つけ
修復

うまくいけば
セイバート
ハタケさんのリンクを
妨害してるからしません

直接サーヴァントを詠むのは
初めてなので
保証はできませんが……

それでも
俺は
すがりたい

頼む

そうだ

俺にも
手伝わせて
くれないか

えっ

ちよつと

それは

……？

白野くんは
外で待機！

いや……
入口で見張ってて

ええ？

絶対……

中を覗いちゃ
駄目よ……





それに
既想の時は
いつも裸ですよ

私

あまり深く
聞かないほうが
いいわね

ほう

何をやるか
わからないが

そなたたち
大儀である

あのね
セイバー……
少しでも成功率を
高めるために

肌を重ねる
必要があるの

か重ねるだけよ

俺からお困り
大分しくして……











セイバー！







僕と彼は
数通りの
兄弟なんです



兄さん？



ユリウス・
ヘルキスク・
ハーウェイ



おや
ご存じなかった
のですか？



もっともその事実と
兄さんが聖杯戦争に
参加していることとは
何の関係もありませんが

彼は単純に
ハーウェイ家次期当主の
護衛として
ここにいますのです

貴方では
兄さんには勝てない
……ですから
お別れの言葉を

だとしても

勝負は
やってみなければ
わからない

この世に
絶対なんか……

ない

それは……
そうですね

彼とて絶対では
ありません

天の意思が
下されるなら
兄さんにも
それは抗いようの
ないこと

もし兄さんが
敗北するなら
その時は
不運だと思いたしう

ただ純粋に

彼には
運が
なかったと



僕の中には
彼の勝敗で
揺れ動くものは
ありません

何より
生を願う意味が
ありません

最終的に
この戦いで
勝ち残るのは
僕だけなのですから

今ひととき
彼の生を願って
どうするのです



レオ！
それは



速い

目的達成のためなら
実の兄すら
手にかけることも
ためらわない

それは

あまりにも
感情がないんじゃないか？



兄のことを想うことは
王の行いでは
ありません

ただ

ひとつだけ
救いがあるのなら
それは無意味な
死ではない——ということ

兄さんは
僕が世界を
統治するための
礎になります

それは人々にとって
揺るぎない
成果でしょう



ガウエイン
剣を収めてください

はい

ほっ...



これが
し才の考え方...

世界に君臨するものを
約束された王者の思想



ユリウスは……
何を思つて
この戦いに
挑んでいるんだ



五の月想海 決戦場



セイバーを失って
泮波白野は脱落か



どうした？
ユリウス



...



問題ない
アサシン

お前の
無二打を
喰らって
生き延びた者はいない

あとわずかか…
わずかだ
レオの手が聖杯に届く

この体が保つまで
あの女との約束を
果たすことが……

では余が最初に
生き延びた者になるな
ハーウェイの風鈴よ

!!

死にかけて
いたのに
威勢の良いことだ

マスターは
どうした

ふん 勇者に
不意打ちされては
叶わぬのでな

余が代わりに
相手をしよう

そのの
サーヴァント！

姿は見えぬが

居るのだろう？

あの不意打ちのあり
貴様が見せた技は
見破ってるぞ

あれは打撃の瞬間
拳に乗せた己が魔力を
相手の体内に返らせ
全身の動脈を乱す技

貴様 拳法家…

それもクラスは
アサシンで
召喚された者であらう

天地万物と
武を同一とみる
中華の奥義!!

同じ技は
二度喰らわぬ!!



カ
嗡嗡嗡嗡っ！
うむ 上出来だ！

「の打ち受らずと
置われた奴が
見届ったか！

ならば
試してみるか！



よし

甲つてまだ



同じ技は
二度喰らわぬ
ぞう！

奴の
姿が見える
場合ならな



頼むぞ
奏者



アサシンの透明化は
まだ対策がないようだ



追うぞ
アサシン



追いつけない状態が
敵の能力に
よるものなら

そこには必ず
理由があり
打ち破る方法があるわ

透明化の
スキルについて

可能性は
この3つ

特殊な装置……
例えば道具を使って
周囲に
同化しているか

魔術を使って
透明化しているのか

集中力に依存して
気配を遮断しているか

それぞれの能力に
応じて3種類の
トラップを作ったから
あなたに預けよう

相手の能力を探り
正体を確かめるのよ

決戦場に
トラップは
仕掛けておいた

この森の性質上
同じ場所に3つ
設置できない

それぞれの場所に
セイバーが
上手く誘導すれば…

勇者よ！
もうすぐ
罠を仕掛けた
場所だ！

来た



ユリウスは
追って来ている

アサシンの気配は
明々わらわ
殺気すら
読み取れない

だが

ユリウスの
強気の間合いから
奴は……
確実に思える――



接近されたら
終わりだ



ここだ



敵の装具に
反応する器



対装具トラップ



速坂の読みが
当たれば
次の襲で
反応があるはず

今更かしら



反応なし!?



貴様



番者よ
次の場所の指示を…

いや

まずい
ユリウスが
立ち止まった

アサシンのスキルは
秘奥にも魔術にも
依存していないのか



仕掛けているな！

何か



気付かれた！

セイバー――！
戻れ！

奏者！

そこか

アサシンの
標的が変わった

逃げよ
奏者!!!





小僧……
自分を餌に……



仕掛けよったな!!!



対精神トリック・ブ

眼を怪しまれるのを
見越して

最後の仕掛けは
俺の周りに
仕掛けておいた



ぬおおおっ!?



くハハハツ
そうか小僧
天地を返しおったな!?

何事だ!?

おまこも
大事だ!

あやつらの
知己には
天仙までいるらしい!

これは
陰陽自在の
八卦炉よ!

いやあ
僕の氣功を
僕に返すとは
まさに神業!

見よ
おかげで――

この通り我が
「國境」が破れおった

ここまで
神羅動を傷つけられては
三日四日では治るまい!

「國境」……

おれは神羅の所屬
氣配を完全に遮断する
「國境」を呼ばれる境地

中華の拳法家でも
ほんのひとにぎりが
到達できる
完全な達人の証だ

それほどの力を持つ
「二の打ち要らず」とまで
言われた拳法家だ
この歴史上ひとりのしかない

李書文^{りしよぶん}

魔拳士とも言われ
武俠に生きた
八極拳の武術家にて暗殺者

応よ

僕の真名まで
暴いてくれるとは
愉快 愉快

これまでの相手は
戦いにすら
ならなかったからな！

命の重みに優秀はない
などとは言わん

くびり殺すなら
やはり小獣より
虎の首でなくてはな！

僕もまだまだ
悪行から抜け出せん

正念場だ
奏者

この魔拳士に
討ち勝つぞ



アサシンの真名を
解いたところで

ア
ン
互角の戦いに
持ち込めると
思うな



ユリウス
お前は…



誰のために
戦っているんだ？



……なんだと？





phantasm23

僕に告げる君の名は





だったら
なぜ

お前は
そんなに辛そうな
顔をしているんだ

ユリウス！

俺にこんな感情が
まだ残っていたなんて
認めたくなかった

よりにもよって

こんな奴に
見送られるのは

気に喰わない！







なほは
余の焰で
燃焼願へやう

原初の火

アルストロメリア・アルストロメ



速く

速く

奴の拳よりも
速く！



速さも
関係ない

距離も！

速さも
関係ない

距離も！



僕の拳は
ただ壊すもの

炎とて
例外ではない





セイバー！
おぬしは
小娘の形を
しているが
英雄の格は
一級だろう？



おぬしらは強い！
ここまでの
どの敵よりもな！

だが
まだ全力では
ないな？



なぜ
正体を隠す？



宝具を開け

全力で
挑んで来い

今のままでは
僕には
勝てんぞ



奏者よ

今まで
つまらぬ境地で
そなたに
苦勞をかけた

そなたこそ
余のマスターに
相応しい

岸波

貴様の強さは
どこから

俺の魔力の
すべてを……

セイバーに
捧げる

貴様を初めて
狩り取った日
俺は目を疑った

貴様のような小物が
なぜその器格の
サーヴァントを
引ける

……ああ

万雷の喝采が聞える

在りし日の光景が……

レダナム・カエロラム・エト・ジスヘナ
天国と地獄

幕かれよ
我が摩天！

ここに
至高の光を示せ！



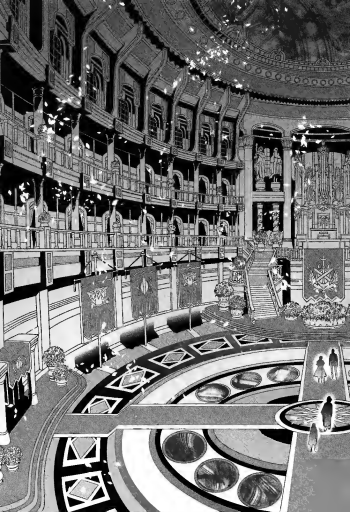



出でよ

招き蕩う黄金劇場

ア
エ
ス
ト
ラ
ス
・
ド
ム
ス
・
ア
ウ
レ
ア







我が真名はネロ！



ローマ帝国第5代皇帝

ネロ・クラウディウス・カエサル・
アウグストゥス・ゲルマニクスである!!!



phantasm24

遥かなる帝政



ネロ・クラウディウス

古代ローマ帝国に
その名を残す
第5代皇帝

あつめる快感
あつめる芸術を
嵐水のように
染み込んだ皇帝の名

宗教を弾圧し
帝政ローマの根幹にあたる
元老院制度を解体しようとし
皇帝である前に
芸術家として放蕩し

その報いとして



逃亡の途中



「反乱によって
皇帝の座から退き

自らの命を
絶ったという

暴君ネロ





セイバーは
そんな最期を迎えた
人物とは
別人のようなのに

……
イメージが合わない



それとも

俺は

セイバーが
失望と挫折の果てに
自ら命を絶った事実を
想像したくない
だけなのか

フフ

そなたは本当に
隠しことができないな

よい 考えていることは
だいたいわかる

この戦いを
共に生き抜くことが
できたら
詳しく語ってやろう

余の生涯と

その結末を

この風景は…
森の中の現象を
上書きしたところ
いうのか

アサシン
ここはヤツの領域だ
何が起こるかわからん

警戒しろ

やあ
ああ
あ

あッ

100%







セイバーの
剣が
通った！



いかにも

この空間は誰であれ
余の許可なく
その力を十全に
發揮すること叶わぬ
絶対皇帝國

座して
觀えと!!



僕の協力を
何割か封じたな？

これが
お主の
宝具の力か



そうよな
お主には
元より
時間がなかった

隣殺者として
恐れられた
お主の体が
死を抱えているとは

皮肉なものよ

生を楽しむ
余裕など
許される
はずもなし

だが

ここで
敗北すれば
同じこと

楽しむのは
此処まで





奴の
圏域を網き取り
力を奪い

ここまで
やって

やっと五分の
勝負

余の宝具で
アサシンの力を
抑え込めるのは
わずかな時間



次の一撃が
最後の勝負だ

覚悟は
良いか？



俺は

セイバーを
信じる

ギョ



少女謳う華の帝政



我が八極に二の打ち要らず！



七孔噴血

撒き死ねい！！



セイバー!!!





勝負が
ついた

これは
死の壁

敗者はこの中で

死を待つのみ

ゆっく……

俺が死ぬのを
見届けろのか
ユリウス



同じ技は

30...

二度きかぬと
言っただろう

敗北か...

懐かしい
とでも
言うべきか

これを
味わったのは

記憶の端に
わずかに
残るほどの

昔のことだ

ユリウス
詫びは言わんぞ

しかし
礼は言おう

久々の姿
おぬしのお陰で
存分に楽しめた

さあ 最期だ
頭を上げろ

.....
どうした
おぬし





無駄だ

いくら抗っても
決定した死は
止められぬのだ！

恐ろしい執念だな

あの状態から
コードを紡ぐだけでも
相当な激痛だろうに



これではまだ
死ねないのだ!!

オレは…

オレは……



……
そのとき

ユリウスが震れたとは
微塵も感わなかった

任務とはいえ
たぐさんの難なき命を
奪ってまた人間だから



だけど



死に抗い続ける
ユリウススの目を
見せて



俺は
無意識に
手を差し伸べていた









最初に在った
彼女の存在は
脆弱な
ものだった

皇位の継子とくっ
てはなん
その一族の末裔とくっ

皇位の座など
望むべくもない

また
望むべきでもない

彼女の人生が
最初に踏み違えたのは
母國の淫靡さによつてだった

弱く

後ろ盾のない
父の子供として

父の死後

ネロの弟アグリッピナは
先代皇帝と再婚し
自らの子を皇帝とするため
あらゆる奸計を行う



phantasm25

薔薇と炎と永遠

女騎士にもかかわらず
ネロと
先代皇帝の娘との
婚姻を成立

意くな
オクタヴィア

母上が
決めたことだ

その第よりも
高い次期皇帝権を得た

まるで
侵略者
だな

先代
皇帝の
長女

ネロは
自分の意志にかかわらず
17歳にして
ローマ帝国の頂点に
押し上げられた

……その出目が
正当なものではない反動が
ネロは身内より
他人を愛した

より正確に言えば
名高い貴人たちより
名もない
市民たちを愛したのだ

史実において
彼女は帝政口
を退させた
語り継がれて

それは純然たる
その故にあった
改革。だった

ネロは私利私欲によって
腐敗した元老院をも
特権化していた元老院にも
異なるところ対立

元老院と
元老院を統一する
元老院の対立は
本質化した

元老院の
元老院の
元老院の
元老院の

あの議員が
不正を働いたと？

あの者は昨年
わらわに
多大な貢献を
しました

元老院の
元老院の

私欲で
元老院に口を出す
元老院

元老院の
元老院の





母上

この杯は
お返しします



彼女が
公然の場で母を
斬り捨てるしかありません

あ……

……



——この者は
余に毒を盛った

母であれ
皇帝に瘡する者は
死罪である!!

時に西暦50年

皇帝ネロの姿が
不動のものになった
瞬間である



その頃からだ
余の頭痛が
ひどくなっていったのは

銀の杯を常用したのが
原因だの
怪性的な
ヒステリーなどと
言われてはいるが

何のことはない



余は母に逆らえぬよう
幼い頃から
毒を盛られていただけだ

解毒薬と毒を
同時に使われて
いたのだろう



母が死に
解毒薬の所在は
闇に消えた

余は――
まあそういった理由で
常に熱に浮かされて
いたのだろうよ

……ネロの人生はそこからさらに路を変えはじめる

母によって
強制的に婚姻させられた妻
オクタウィアの自殺

自身の権力を
強固にするための
義弟の殺害

そして――



皇帝陛下
あなたは
随分と速いところまで
来てしまいましたね

あなたの
才を見出した
私にも
責任があるのですが

そなた
まだ余の踊る舞いを
観ているのか

あれは
手違いだ

議會で余の批判を
していた件も
許すぞ

余は
寛大だからな

では
お暇を
頂戴したく
御座います

あなたの手の
置かない
ところへ

……そんな
場所など
ないぞ

……誰ぞ

本当に
行くのか？

……そして
唯一の敵であり
心から頼りにしていた
哲学者セネカさえ
ネロは白狼に追いつんだ



すべては彼女が
彼女として振る舞うこと
結果である

市民たちに
絶大な人気を博した
皇帝は、同時に

朝敵たちにも
死と恐怖をまき散らす
悪魔でしかなくなっていた





余は元老院から
皇帝の座を追われ
国賊として
戮かれる身と
なったのだ



それから
数年後に
反乱が起きた



反乱など
恐れるものか



ここで余の
最大の誤算があった



余は市民たちに気づかされた
市民たちも
余の政敵を助けてくれた



だから――
最後の最後では

市民たちが余の地位を
許しはしないはずだ



だが



彼らから
何も
なかったのだ――



何も……



その原因に
気付いた時には

すべてが遅かった



余の愛は
そなたらの言う愛とは
どうも違うようだ



この胸に灯る愛は
人々のソレに比べると
重く激しいものらしい

余の愛は
我が儘だ

何もかも
与える代わりに
何もかも
奪われれば気が済まない

美しいもの
愛すべきものには
金銭をもって応える

だが――
それは

ただの炎だ

魂を取ろうと
歩み寄る者がいても

その者と
焼き尽くしてしまう
炎なのだ……

人々が抱く愛とは
もつと柔らかなものだった
余はそこを
わかっていなかった

……いや
気付いては
いたのだ

でもどうしても
理解できなかった！

私には
彼らの言う愛が
どうしても

余は絶望の愛を
市民に振りまいていた

彼らが余を
愛する道理など
なかったのだ



なぜ余は

多くの人々が抱く
当たり前の
愛というヤツを

共有できなかった
のだろうか……



もう
これ以上は
逃げられないか





いつか見た
朝日とは
対照的な

深淵……

本宮に遠いところまで
来てしまったぞ
師よ

さあ
どのように
終焉を迎えようか



……止まらなかった
つまるどころ
それはただひとりの孤独だ

……………

……愛し 愛される喜び
誰よりも人間を愛しておきながら——



この少女はそんな簡単な喜びを
ついぞ 知ることはなかったのだ



死ぬのは
嫌だ

死にたくないっ

消えなかったのはなぜか

死にたくなかったし

自分はずっと生きていたとも思えなかった

余は……
わたしはっ

まだ

だから早くあがいたが、本当は

……本当は

誰にも愛されず消えることが
この少女には耐え切れないほど
哀しい結末だっただけ

要領よ

そんな顔を
するではない

余は確かに暴君であり
多くの命を摘み
その末路に相応しい
醜態を最期を迎えた

それも事実だ
否定はせん

だが
何ひとつ恥じる
ところはないぞ

余は最期まで
命として生きた

それがすべてだ

後悔はあれ
否定など
するものか

ただ……

その……

だを……



なぜなら
うむどうあっても

余はそなたが

好きだ!!!

そなたに
纏われるのは辛い
仮にそうであるのなら
愛されるよう
励むだけのこと!

うむ

ほんつとーに辛い
そこは
我慢しなくてはな

見ているが
いい

いずれ必ず
そなたの心を
奪ってみせる!



俺にとつての
彼女は



ちよ……
ちよつと待て
セイバー

セイバーとはじめて出会った時
ただ死を迎えるしかなかった俺
。ただ終われないと
弱々しく叫ぶだけだった俺を
セイバーは誇らしげに見つめてくれた

我がごとのように戦ひをいぬめて
その心に力を貸すと
手を伸ばしてくれた

……もう随分と昔に感じるが
あの時の光景は今も色褪せない

頭が高い勇者が
バロンに向かってやうに
本気で叫びだすらしい

俺にとってセイバーは
紛れもなく
尊い存在だ

そして

不理解と裏切り
戦いと苦悩に
満ちた人生を
セイバーは、嘆しと言った

その美さが
俺には眩しい

俺はセイバーに
特別な
人間になりたい

契約を結んだ
関係ではなく

セイバーと
対等の人間に

今は
そう
思っている

それと……

俺

頭の中が
セイバーのことで
いっぱいだ

あつ!?

ば……
ばかものっ

サラッとして
言うでない

もう一度だ

いつか
俺の記憶が戻ったら

セイバーに
俺のことを
聞かせてあげたい

故郷の話や友人の話を

漫然と聴きながら
眠りこける

勇者……

ありがとう

すべてを捧げ 貴やし 慰め居る愛
無常しながらも永遠を望まない 激しい情熱のかたち

彼女の愛は本当に届かなかったのか？

——ネロの落日後 伝えられた話がある

ローマ市民たちはネロの死をいたく悲しんだ

生前 理解されることはなかったが
彼女の死後
市民たちは彼女の在り方を愛し 惜めた

届くことはなかったが

人々はそれを美しいと感じたのだ



敵を倒して来た
我々は……

ほーん

前話
月の野村戦争
予選を無事
通過し



玉塚さん
調子こきすぎじゃ
ないですかあっ

ほほほ



敵を散れ！

ほほほ



なぜか
海に来ていた



ウオッ？

あー
ごめんごめん
アーチャー

extra episode
水着回だよEXTRA

マスター……
お楽しみのところ悪いが
少し気が収まらず
じやないか？

海といえど
ここはアリーナ！
いつ暇が獲ってくるか
わからないのだぞ

ふん
アーチャーよ
そなた！

相変わらず
ノリが悪いの

しれ……



愛を感い
度れ果てた勇者を
救うための旅行

ちよ……
私も数人入って
やがるんですか

バカ2人は
放置だ

そのような
余の気遣いも
認めようでは
余のハイレムに
加わる資格は
ない

マスター！
冒険は
いかほどに……

って
いない？







ユリウス

全体的に
ミステリアスな感じ

ユリウス・ベルキスク・ハーウェイ ◀ robina's memo ■ ■

暗殺者ということで初期は陰みのある雰囲気でも描いていましたが後半は空想のレオと対比して愛を抱えている方向になるようにしました。そして流石の暗殺者。刃物より鞭を重視。

アサシン

鋭い目も口も極み研ぎ込まれた口元

一人称は僕(わし)

青年時の姿で再現している為
若干しいずれ



アサシン ◆ robina's memo

黄金劇場を暗示しても全然勝てないアサシン先生。終盤アサシン先生のボエテが随ってバサーっとなるところまで想像しました。ユリウスとの師弟コンビっばいところも描いてみたかったです。

アグリッピナ

ネロママ
母親揃ってヘソ出し

母もライオン模様の服し出果そう
権力に取り憑かれ愚鈍で怖い



アグリッピナ ◆ robina's memo

セイバーの天然ネロママ。母もライオン模様の服し出果そう。毒婦に前髪ばっつんおっぱいは隠れません^^と
嬉々として描きました。ローマ編はセイバーの内面も掘って良かったです。



セネカ先生

ネロの家庭教師

元・元老院員の哲学者
暴政から保護を願った

教育・政策方針は「寛容」

聡明な頭脳は
地盤を全部踏み潰す
ある意味、几帳面な性格

肩が痛く
腰も痛く
首が痛いと
ネロにボヤかれる



セネカ < robina's memo

哲学者なのに体格良すぎて体育教師のようなセネカ……ロ、ローマは体育教えるのがデフォだから！ネロが唯一
家族と認める存在でしたが終焉の静りを伺った感じが素晴らしいですね。

おまけのEXTRA.



フェイト/EXTRA 4巻を
読んで下して
ありがとございます

4巻では魔しの若せいの
過去回想が描けて
幸せすぎました!!

3a~♪

ローマ皇帝が
逃げられないのよ



Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

フェイト/エクストラ④

漫画

ろび～な

原作: TYPE-MOON/マーベラスAQL

2013年9月26日初版発行

発行者

井上伸一郎

発行 株式会社**角川書店**

〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3 電話／(03) 3238-8661(編集)

発売 株式会社**KADOKAWA**

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話／(03) 3238-8521(営業)

<http://www.kadokawa.co.jp>

装幀・デザイン

福澤 恵・井川直子 (ARTEN)

印刷

凸版印刷株式会社

製本

凸版印刷株式会社

初出／『コンプティーク』13年1月号～8月号
『TYPE-MOONエース』VOL.8



本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配付は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

盗丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受付センターへ御寄附元にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2013 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Robina 2013 ©TYPE-MOON

©MarvelousAQL Inc.

ISBN978-4-04-120628-1 C0879
